



Doshisha University Academic Repository

同志社大学学術リポジトリ

著者・翻訳者プロフィール

著者	同志社コリア研究センター
雑誌名	同志社コリア研究叢書
巻	3
ページ	313-316
発行年	2017-03-24
権利	同志社コリア研究センター
URL	http://doi.org/10.14988/re.2017.0000016109

著者・翻訳者プロフィール

◎著者

板垣 竜太 (いたがきりゅうた) (はじめに、第3章)

同志社大学社会学部 教授。専門は朝鮮近現代社会史・文化人類学。

単著として『朝鮮近代の歴史民族誌—慶北尚州の植民地経験』(明石書店、2008年)があり、鄭炳旭との共編著として『日記が語る近代：韓国・日本・ドイツの共同研究』(同志社コリア研究センター、2014年)、『식민지라는 물음 (植民地という問い)』(소명출판、2014)がある。

鄭 炳旭 (チョンピョンウク、정병욱) (はじめに)

韓国・高麗大学校民族文化研究院 HK 教授。専門は韓国近代史。

主な論著として「식민지 조선의 반중국인 폭동과 도시 하층민」(『역사와 담론』73、2015.1)、『식민지 불온열전：미친 생각이 뱃속에서 나온다』(역사비평사、2013)、板垣竜太との共編著として『日記が語る近代：韓国・日本・ドイツの共同研究』(同志社コリア研究センター、2014年)等がある。

駒込 武 (こまごめ たけし) (第1章)

京都大学大学院教育学研究科 教授。専門は台湾近現代史・植民地教育史。

単著に『世界史のなかの台湾植民地支配—台南長老教中学校からの視座』(岩波書店、2015年)、共著に『内海忠司日記—帝国日本の官僚と植民地台湾』(京都大学学術出版会、2012年)、『戦時下学問の統制と動員』(東京大学出版会、2011年)等がある。

太田 修 (おおた おさむ) (第2章)

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 教授。専門は朝鮮現代史・近現代日朝関係史。

主な論著に『〔新装新版〕日韓交渉—請求権問題の研究』(クレイン、2015年)、「朝鮮解放直後におけるある労働者の日常—仁川の電気工I氏の日記から」『同志社コリア研究叢書1 日記が語る近代：韓国・日本・ドイツの共同研究』(同志社コリア研究センター、2014年)、「戦時期大邱の朝鮮人女子学生の学校生活—1937年の日記から」『植民地朝鮮の日常を問う』(思文閣出版、2012年)等がある。

廉 仁鎬 (ヨム イノ、염인호) (第4章)

韓国・ソウル市立大学校国史学科 教授。専門は韓国現代史。

単著として『또 하나의 한국전쟁：만주 조선인의 ‘조국’ 과 전쟁』(역사비평사、2010)、『조선의용군의 독립운동』(나남출판、2001)、『김원봉연구』(창작과 비평사、1993)がある。

李 松順 (イソンスン、이송순) (第5章)

韓国・高麗大学校韓国史研究所 研究教授。専門は韓国近代史(社会経済生活史)。

主な論著として『한국철도, 추억과 희망의 레일로드』(선인、2016)、『日帝下 戦時農業政策과 農村經濟』(선인、2008)、「일제하 1920~30년대 여성 직업의 지역별 분포와 존재양태」(『韓國史學報』65、2016.11)、「도쿄 (東京) 제국대학 농대와 1910년대 조선총독부 농업고등기술관료 그룹의 형성」(『韓國人物史研究』25、2016.3)等がある。

安 勝澤 (アンステンテク、안승택) (第6章)

韓国・ソウル大学校奎章閣韓國学研究院 HK 研究教授。専門は歴史人類学。

主な論著として『식민지 조선의 근대농법과 재래농법』(신구문화사、2009)、「18・19세기 농서(農書)에 나타난 경험적 지식의 의미 변화와 분화」(『韓國思想史學』49、2015.4)、「한 현대농촌일기에 나타난 촌락사회의 계(契)형성과 공동체 원리」(『농촌사회』(24(1)、2014.1)等がある。

李成浩 (イソンホ、이성호) (第6章)

韓国・全北大学校 SSK 個人記録研究団 専任研究員。専門は地域社会学。

主な論著として「반공국가 형성과 지역사회의 변화 - 『월파유고 (月波遺稿)』의 한국전쟁기 기록을 중심으로-」(『지역사회연구』21(1), 2013.3)、共著として「1970~80년대 농촌사회의 금전거래와 신용체계의 변화: 『창평일기』를 중심으로」(『비교문화연구』22(1)、2016.1)、『전북지역 민주노조운동과 노동자의 일상』(한울、2009) 等がある。

金成妍 (キムソンヨン、김성연) (第7章)

韓国・延世大学校国学研究院比較社会文化研究所 専門研究員。専門は近現代韓国文学。

単著に『서사의 요철 (凹凸): 기독교와 과학이라는 근대의 지식-담론』(소명출판、2017)、『영웅에서 위인으로: 번역 위인전기 전집의 기원』(소명출판、2013)、共著に『한국의 근대성과 기독교의 문화정치』(혜안、2016) 等がある。

◎翻訳者

呉仁済 (オインジェ、오인제) (第4章担当)

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 博士後期課程。大谷大学非常勤講師(朝鮮語)。専門は朝鮮近現代史・在日朝鮮人史。

主な論文として「高暮ダムの歴史再読—戦前・戦中・解放後の広島における在日朝鮮人史の交錯」(『在日朝鮮人史研究』46、2016.10) 等がある。

原佑介 (はら ゆうすけ) (第5章担当)

立命館大学衣笠総合研究機構 専門研究員。専門は比較文学。

主な論著として「害虫たちのジェノサイド、益虫たちのユートピア」(『生存学』9、2016.3)、『引揚者』文学から世界植民者文学へ: 小林勝、アルベール・カミュ、植民地喪失」(『立命館言語文化研究』24(4)、2013.3)、共著として、「戦後文学の『夜の声』: 朝鮮戦争と戦後日本の誕生」(西川長夫ほか編著『戦後史再考: 「歴史の裂け目」をとらえる』平凡社、2014年) 等がある。

安田 昌史（やすだ まさし） （第6章担当）

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 博士後期課程。専門は在日朝鮮人の労働・経済活動・生活史。

主な論文として「西陣織産業における在日朝鮮人—労働と民族的アイデンティティを中心に—」（『同志社グローバル・スタディーズ』6、2015.3）、「戦後京友禅産業における朝鮮人労働者—蒸・水洗工場 M を事例として」（『朝鮮史研究会論文集』52、2014.10）等がある。

西村 直登（にしむら なおと） （第7章担当）

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科 博士後期課程。桃山学院大学非常勤講師（近現代日朝・日韓関係史）。専門は朝鮮近代史・近現代日朝関係史。

主な論文として「関東大震災下における朝鮮人の帰還」（『社会科学』47(1)、2017.5 刊行予定）等がある。